

平成 30 年 度

人間発達科学部 人間環境システム学科
人間情報コミュニケーションコース

推 薦 入 試

小 論 文

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないこと。
- 2 問題冊子は、表紙を含め全部で 12 枚、そのうち解答用紙 2 枚、問題選択調査票 1 枚、下書き用紙は 1 枚である。
試験開始の合図があってから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁などがあった場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 問題冊子に書かれている解答上の注意をよく読んで解答すること。
- 4 配布された問題冊子は、解答用紙・問題選択調査票を除き、試験終了後、持ち帰ること。

実施年月日
29.11.29
富山大学

■ 解答上の注意

- (1) 問題 **1**, **2**, **3**, **4** から 3問選択して解答すること。自分の選択した問題を、問題選択調査票に記入して提出すること。
- (2) Web で調べるものには特に制限を設けない。ただしメールやメッセージ、掲示板、SNS などを用いて、質問等を行ってはいけない。
- (3) **1**~**3**の解答は横書きのワードファイルとして、デスクトップに置きなさい。
ファイル名は以下のようにして保存すること。
1は 1-受験番号 (半角8文字)
2は 2-受験番号 (半角8文字)
3は 3-受験番号 (半角8文字)
- (4) ワードの文書作成にあたっては、それぞれのファイルとも以下の書式 (A4 版) に従うこと。
 - ・ 1 行目には、受験番号を、中央揃え、12 ポイント MS ゴシックで入れること。
 - ・ 解答には 12 ポイント MS 明朝(日本語)、Century(英語)を用いること。
 - ・ 各問題の設問について、どの設問の解答かがわかるよう、(1)、(2)、(3) …と分けて解答すること。各設問の解答に必要なスペースは特に指定しないが、レイアウト等を工夫すること。
 - ・ 解答のために参考にしたすべてのサイトの URL の一覧を、「参考にしたサイト」として、各ファイルの最後にまとめて列挙すること。
- (5) 提出物は以下のようなになる。
 - ・ **1**を選択した場合、ワードファイル (デスクトップに保存) と解答用紙
 - ・ **2**を選択した場合、ワードファイル (デスクトップに保存)
 - ・ **3**を選択した場合、ワードファイル (デスクトップに保存)
 - ・ **4**を選択した場合、解答用紙
 - ・ 問題選択調査票(必須)
- (6) 退出時にシャットダウンやログオフを絶対にしないこと。

1

病気 S は確率 0.01 でかかる非常に珍しい病気であることが知られている。

最近、X 社は病気 S にかかっているかどうかを判定する為の検査方法 T を開発した。ある人が病気 S にかかっているとき、検査方法 T は確率 0.99 で病気 S にかかっていると正しく判定する¹が、ある人が病気 S にかかっていない場合でも、検査方法 T は確率 0.01 で病気 S にかかっていると誤った判定をする²。

この問題では、この検査方法 T の信頼性について考える。検査方法 T が信頼できる基準を、ある人が検査方法 T によって病気 S にかかっていると判定されたときに、本当に病気 S にかかっている確率が 0.95 よりも大きいこと³ と設定する。

ある人が病気 S にかかっている事象を A、ある人が検査方法 T によって病気 S にかかっていると診断される事象を B とおき、以下の間に答えよ。なお、以下の問の解答には解答用紙 1 を用い、ワードファイルにはこの問題の解答に際し、参考にしたサイトの URL の一覧のみを記すこと。

問

1. ある人が病気 S にかかっていないという条件のもとで、検査方法 T が病気 S にかかっていると判定する確率 $P_{\bar{A}}(B)$ を求めよ。ここで、 \bar{A} は A の余事象を表す。
2. インターネットを利用して「ベイズの定理 (Bayes' theorem)」について調べ、「ベイズの定理 (Bayes' theorem)」を用いて検査方法 T が下線部 3 の信頼基準を満たさないことを説明せよ。
3. 検査方法 T を改良し、下線部 3 の信頼基準を満たす検査方法にしたい。但し、下線部 1 の部分の精度はこれ以上改良することが不可能であり、下線部 2 の部分の精度についてのみ改良の余地があるとする。

改良後に下線部 2 の確率が 0.01 から p へ変わったとする。 p がどの程度小さくなれば、検査方法 T は下線部 3 の信頼基準を満たすかを求めよ。

2 次の英文を読んで，質問に答えなさい。

著作物引用箇所のため非公開

1. 下線部 1 を日本語に訳しなさい。
2. 下線部 2 の理由を日本語で説明しなさい。
3. Twitter users が懸念していることは何ですか。第三段落を読んで，日本語で述べなさい。
4. 下線部 3 について，第四段落を読んで，具体的に日本語で説明しなさい。
5. Twitter の新しい字数制限について，あなたはどのように思いますか。あなたの意見を 50 語程度の英語で述べなさい。

3 以下の文章を読んで後の問に答えなさい。

篠原 まずは、書くとはどのようなことか、書くことと会話することとの関係はどのようなものかということについて、考えていることをお話ねがいます。

中村 本を読む場合、書くことと話すこととの関係はあまり意識されません。読者は書いたものを読むわけですが、書いたもののなかにはインタビューという話されたものをベースにしたものもある。ここには書くことと話すことの相互作用があります。ただ、一般的な理解ではそう捉えられていない。インタビュー本は入門書のように扱われる傾向にあります。ある主題や思想を平易に伝える手段のように捉えられるインタビュー本は、オリジナルのテキストに対する二次的なものと思われがちです。しかし、書くことと話すことの相互作用から捉える場合、この形式は非常に面白い。私たちはいま、会話をしています。そして、この会話が書かれたもの、すなわち本となり、読者に送り届けられる。すると、この会話が、今度は、読んだ人の会話の話題になるかもしれない。そういう関係性が、書くことと話すことの相互作用を通じて作られるインタビューのうちにはあるのだと思います。

このことはもちろん、インタビューだけでなく本それじたいにも当てはまります。ただし、今の人文学者の置かれた状態では、この書くことと話すことの相互作用が困難に陥っています。研究会に参加し、研究仲間と会話し、文章を発表するという機会を可能にするネットワークは、私が属している大学とはかかわりのないところに広がっています。そこではもちろん不十分ではあるにせよ、書いていることについて話し、あるいは出版された本の合評会を行うといった活動は行なわれています。ところが、自分の職場である大学では、研究の話はできません。自著を出してもそれに関心を示す人はまずおらず、そもそも、図書館に本が置かれていない。また、学生の側にも、教師が書いた本への関心がない。そうなってくると、研究し本を書くということが大学の制度にとっていかなる関わりがあるのか、よくわからなくなる。

篠原 そんななかでも中村さんは本を書いている。販売される本を書いている。本を書くということを、どこへと向けているのか。何がモチベーションになっているのか。それはおそらく、「グリッサンの言語を支える現実世界の具体性と、彼の言語が生み出す現実性（読み手が作品から受けとる現実性）の双方に注意を払う」という中村さんの方針がどのようなものかという問いと関連してくることもあります。

中村 まずは、詩、小説、批評、論文といった、人文的なジャンル区分を横断して考え書くことが可能であると示すことを目指しています。グリッサン本人が詩や小説や論文というジャンルの混淆を試みていた様子を描き出すことで、それを読む読者に、人文学の今後のスタイルの可能性を考えてもらうことを目指しました。さらにもうひとつが、グリッサンの言語が生み出すリアリティの効用を論じることです。それは想像力の産物ですが、この産物である言語的リアリティを読者が読むことで、読者自身が想像力を行使して世界の現実を把握することができるようになる。

篠原 文学の領域では、フィクションとノンフィクションの区分といったことがいわれると思いますが、グリッサンはその区分にはとらわれなかったということでしょうか？

中村 グリッサンは、人間が言葉をつかうということは、人間がそもそもフィクショナルな世界を生きていることの証であると考えていたと思います。つまり、言葉をつかうことで人はコミュニケーションをはかるのですが、ここで使われている言葉を透明で明瞭で一義的に意味の確定が可能なやりとりの手段ととらえるのではなく、人と人のあいだに起きる疎外、つまりは誤解をも生じさせるものとしてとらえるのが、グリッサンの独自なところ。人は言葉をつかって気持ちや意見を伝え、言葉を通じてそれらを受けとめるのですが、その伝達と受けとめは、不完全です。言葉が現実そのものを透明に把握し人に伝えるものであると考えるのはそもそも無理な話で、言葉による把握には、それを使う人の想像が入り込まざるをえません。現実と想像の混淆状態において言葉が発せられるとしたら、その言葉は透明ではありえず、不透明的ですし、さらに言葉は一義的ではなく、多義的になります。

また、いまの世界では、私たちが生きているこの現実イメージの形成に、ヴァーチャルで想像的なものが効果を及ぼしています。言葉が多義的というだけでなく、現実世界そのものが多義的です。世界の多義性や現実と想像の混淆性を指し示したグリッサンは、いまの世の状況を予見していたといえるのではないのでしょうか。

そしてグリッサンは、透明性やわかりやすさ、一義性といった観点では把握し得ないものとして、とくに芸術に関心を示しました。そして、芸術に対応するものとして、とくに詩を重視しました。詩もやはり世界を生み出すのですが、詩が形象化する作品世界は、意味と音の水準において多義的で、つまりわかりにくい。ただこのわかりにくさゆえにこそ、作品は一過性のこととして消費されず、長いこと世界に留まることになる。

篠原 なるほど。グリッサンの言葉への感覚はとても独特なことがわかります。透明性と一義性の言葉は、マスメディアや行政や企業や大学などであまりにも普通のこととして流通していますが、そのような透明性と一義性の言葉がいかに普通ではないかを鋭く感知し、のみならずそのような言葉とは違う言葉を人間が使っていることをしつこく考えていたということでしょうかね。

中村 やはり、他者の尊重ということになると思います。

篠原 他者の尊重といっても、それは多分、文化相対主義的な他者理解、違う文化的背景の人であっても違いを認めあつて尊重しましょうというリベラルな人の立場とは違うのでしょうかね。中村さんが書かれている「他者と共に、互いの知らない世界の一部をわかちあっているという不透明性の感覚」という文章からもそれはわかります。

中村 そのとおりです。文化相対主義的な他者理解の場合、何か単一の比較の尺度が想定されていて、それとの参照関係のなかで他者の異質性が把握され、尊重されるということになりがちです。そして、その多くが、西洋由来の尺度です。西洋諸国がアフリカやカリブ海を征服し領土化していくなかで、広められ、強制されていった尺度です。

これに対してグリッサンは、度外れなものの存在を認めるという観点から、他者の尊重を考えます。すでに存在する単一の尺度の観点では把握し得ない度外れなものを、把握し得ないという理由で拒否するのではなく、知ろうとする。

篠原 グリッサンの小説である『マアゴニー』からの引用が印象的ですね。「発見の必要に取り憑かれることがなくとも、生まれつき関係の実践のなかにいるのだ」。つまり書かれるものが書かれているその場を離れて読者に向かって開かれていることを意味するといえるのでしょうか。

中村 理解するという言葉には、すべてをひとつに包括していくという意味があります。つまり、ひとつの尺度のもとに包括したうえで理解する、ということです。これに対してグリッサンは共与という言葉を使います。互いに与え合うなかで、一緒にわかっていくということです。

篠原 マルティニックで生活し、グリッサンと話すなかで、グリッサンの主張がわかるようになって、中村さんの書くスタイルに何か変化のようなものはありましたか？

中村 私の場合、即興で書きました。即興のスタイルでしかグリッサンの思考、感受性をしっかり伝えることができないと考えたからです。彼が述べていることを、複数の著書を横断的に読解しながら関係づけつつ書いていくとなると、最初から見通しを立てて書くよりも、そのときそのときに私が感じたことに素直に書いていくほうがよいということがありました。グリッサン自身が即興の人だからということもあります。

(本文は篠原雅武・中村隆之「読むこと、書くこと、提示し続けること」篠原雅武編『現代思想の転換 2017 知のエッジをめぐる五つの対話』人文書院による。なお一部字句などを削除・修正している)

注 グリッサン エドゥアール・グリッサン。1928～2011。カリブ海のフランス領マルティニーク出身の作家、詩人、文芸評論家。

問

1. 本文の主張を 100 字以内で要約せよ。
2. あなたの読書経験を踏まえ、読むことや書くこと、話すこと、聞くことについて、あなたの考えを 800 字以内で論述せよ。

推 薦 入 試

4

解答用紙 4 にある「部品」を組み合わせたり、レイアウトを工夫したりして「はじめ」の図形または絵を作り、そこから「おわり」の図形までを連続した10以上のイメージでつなげよ。ただし「はじめ」と「おわり」はイメージ数に含まない。つながりは「意味的」「視覚的」あるいはその両方によるものとし、つながりが明確になるよう矢印や文章を用いて補足してもよい。

平成 30 年度 人間発達科学部 人間環境システム学科

人間情報コミュニケーションコース 推 薦 入 試

小論文解答用紙

受験番号

1

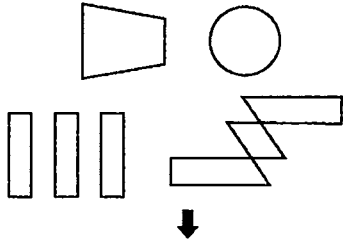
--	--	--	--	--	--	--	--

受験番号

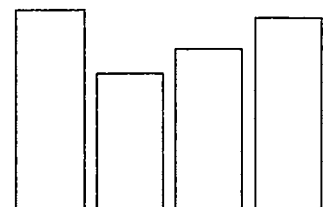
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

4

部品



はじめ



おわり

平成 30 年度 人間発達科学部 人間環境システム学科

人間情報コミュニケーションコース

推 薦 入 試

問題選択調査票

受験番号

--	--	--	--	--	--	--	--

選択した問題に○印を記入しなさい。

1	
2	
3	
4	

下書用紙